

第3章 アンモナイトと関わる人々



学芸員（民俗担当）尾曲香織

そもそも、化石と関わる人たちはどんな人なのでしょう？
普段は家や地域のしきたりなどを研究している学芸員が、アンケートや聞き取り調査をしました。この章では、これまで見えてこなかった、各会員が化石に興味をもったきっかけや探すコツ、保管方法などを紹介します！ また、博物館で化石を扱う学芸員の仕事もあわせて公開します。

北海道博物館

北海道化石会



学芸員（地学担当）
圓谷昂史

学芸員（地学担当）
久保見幸



小川益弘さん



藤原寛一さん



小川さんへの聞き取り調査



化石のまわりの石を取り除く作業
(クリーニング) で使う道具



博物館で収蔵するアンモナイトの同定作業

化石を観察し、論文などを参照して、
どの種類かを調べるんだって。

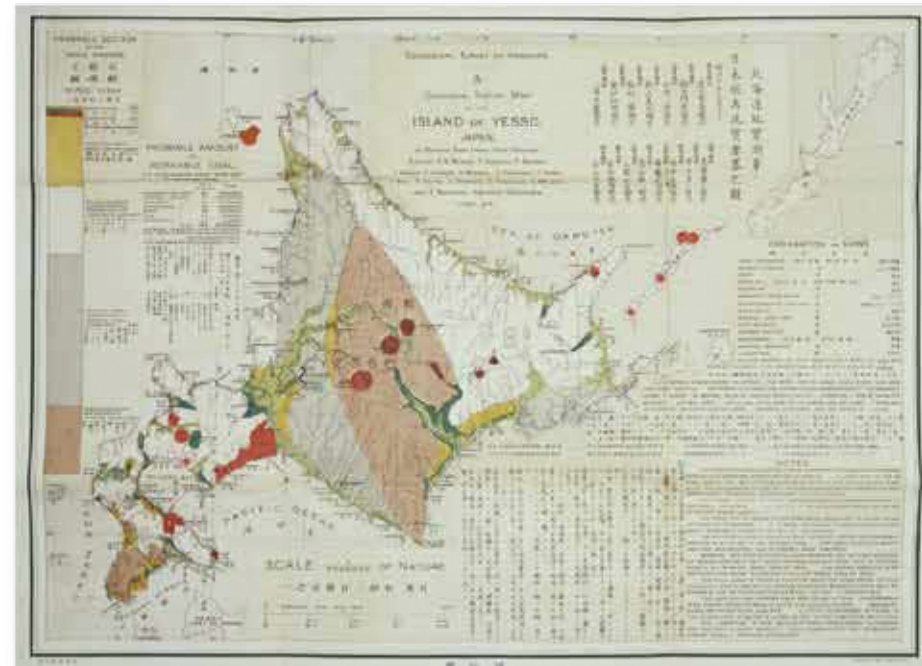


アンモナイトと生きる —50年の歩みとこれから—

昭和45年（1970年）、化石を愛好する人たちの交流をはかることなどを目的として、北海道化石会が発足しました。会員が道内各地で発見した化石は、特にアンモナイト研究の発展に大きく寄与し、北海道博物館をはじめ全国の博物館などに収蔵、展示されることで、その魅力をたくさんの方々伝えてきました。本展示会では、北海道化石会発足50周年を記念して、会員自慢・思い出の化石と会員から当館に寄贈された化石を特別公開します。また、会員が化石に興味をもったきっかけ、クリーニングや保管方法の秘話などをあわせて紹介します。

第1章 北海道とアンモナイト

北海道に分布する白亜紀の地層（約1億3000万年～6600万年前）からは、500種類ものアンモナイト化石が見つかり、今日に至るまで、研究者や化石愛好家により調査・研究が進められてきました。実はその研究は、アメリカの鉱山学者であるベンジャミン・スミス・ライマンが、150年ほど前に実施した炭田調査から始まりました。この章では、ライマンらが作成した地質図を中心に、北海道とアンモナイトの歴史を紹介します。



ライマンらが作成した地質図「日本蝦夷地質要略之図」
北海道大学附属図書館蔵



「ライマン氏と助手たち」
北海道大学附属図書館蔵
*ライマン氏は、下段左から3番目

第2章 私の自慢・思い出のアンモナイトたち

北海道化石会の会員には、アンモナイトの産地である三笠市や夕張市のみならず、道内各地、さらには道外在住の方もいます。半世紀の間、会員同士でフィールド調査に出かけて化石を採集したり、クリーニング方法を相談したり、博物館や研究者と協働して展示会や研究を行うなどの活動を続けてきました。この章では、会員14名のアンモナイト約150点を公開します！



ダメシテス・スガタ
(*Damesites sugata*)



オキントロピドセラスの一種
(*Oxytropidoceras* sp.)

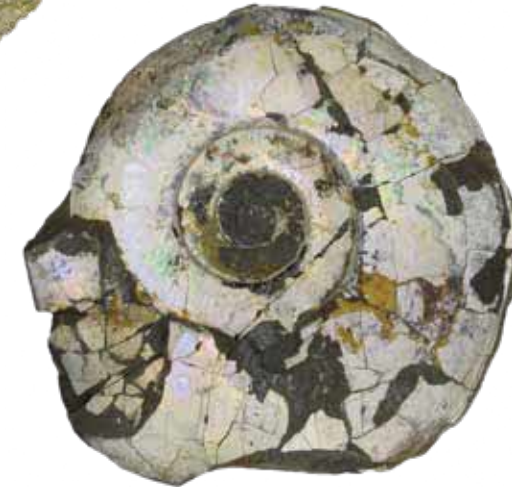


ゴードリセラス・ハマナケンゼ
(*Gaudryceras hamanakense*)

アナゴードリセラス・ハワージ
(*Anagaudryceras howarthi*)



ハウエリセラス・アングスタム
(*Hauericeras angustum*)



ネオンファロセラスの一種
(*Neomphaloceras* sp.)



ニッポニテス・ミラビリス
(*Nipponites mirabilis*)



プリオノサイクロセラスの一種
(*Prionocycloceras* sp.)



アイノセラス・パウシコスタータム
(*Ainoceras paucicostatum*)



テトラゴニテス・グラブルス
(*Tetragonites glabrus*)

エゾイテスの一種
(*Yezoites* sp.)



アナゴードリセラス・リマタム
(*Anagaudryceras limatum*)



アナゴードリセラス・リマタム
(*Anagaudryceras limatum*)



シャーペイセラスの一種
(*Sharpeiceras* sp.)



ハイポツリリテス・コモタイ
(*Hypoturrilites komotai*)